

十勝から、全国へ。

ばんえい競馬は公営競馬としてだけでなく、観光資源として、また十勝の馬文化を伝える場としても全国に知られるようになりました。マスコミで紹介される機会が増え、ばんえいをテーマにした映画やドラマ、コミックなどが話題に。PRばん馬を伴った全国でのイベントも、ファン獲得に貢献しています。



大井競馬場で子どもたちと綱引き対決をするミルキー。帯広市特別嘱託職員として全国に出張するPRばん馬の活動は、ばんえい競馬の啓蒙に一役買っている。

作品になったばんえい競馬

ばんえい競馬を題材にした映画やドラマ、コミックなどのリリースが相次いだ近年。秀作揃いで、ばんえいの魅力を多くの人の胸に焼きつけました。

雪に願(こ)う



『雪に願(こ)う』DVD好評発売中
©『雪に願(こ)う』フィルムパートナーズ

きゅう舎で暮らす人々を 丹念に描いた日本映画の傑作

本作は、帯広在住の作家・鳴海章さんの小説『鞍馬』を原作に、名匠・根岸吉太郎監督によって映画化されました。平成十七年の第十八回東京国際映画祭で高い評価を受け、グランプリ、監督賞、最優秀男優賞(佐藤浩市さん)、観客賞と、同映画祭史上初の四冠を達成しました。

舞台は帯広競馬場。厳寒の早朝、白い息を立ち昇らせてそりをひくばん馬たちと、きゅう舎に暮らす人々の厳しくも温かい眼差し。名優たちの心に迫る演技とともに、ばんえい競馬とそれを取り巻く人々の姿を、全国の観客に強く印象づけました。

撮影が行われたのは平成十七年の二月から三月にかけて。三年前から企画を温めていたという監督は、すでに何度も競馬場を訪れ、きゅう舎関係者と交流を深めていました。馬相手のロケに備え、助監督は撮影一カ月前から現地入りしてきゅう舎作業を体験。調教師役の佐藤浩市さんも馬に慣れるため、現場に前乗りして役作りをしたそうです。作中で「ウンリュウ



帯広競馬場のギャラリー内には、出演者たちの直筆サインが、ポスターとともに額入りで飾られている。

大地のファンファーレ



『大地のファンファーレ』放送時に作成されたポスター。
撮影は山岸 伸さん。

新人騎手の成長を描いた 勇気と希望の物語

NHK 北海道発スペシャルドラマとして制作された本作は、平成二十四年二月十七日・二十四日、前後編に分けて北海道ブロックで放映された後、NHK BSプレミアムと総合テレビでそれぞれ全国放送されました。

脚本を手掛けたのは、NHK朝の連続テレビ小説『ゲゲゲの女房』や大河ドラマ『八重の桜』などのヒットで知られる旭川市出身の山本むつみさん。関係者への丹念な取材とともに、北海道の大地に生きる人と馬の営みを愛情を込めて描き下ろし。新人騎手の葛藤と成長を描いた本作は、生きる道を模索するすべての人に勇気と希望を与える物語として、全国の視聴者に感動を与えました。

撮影は平成二十三年の秋冬と二度に分けて、きゅう舎関係者の全面協力のもと行われました。主演の高良健吾さんが騎乗した「トヨノコトブキ」を演じたのは、ハマクリシンザン。実は秋と冬のロケの間に大病を患い、一時は生死の境を彷徨いましたが、手厚い看護の甲斐あり復帰。無事に大役を果

【スタッフ】

脚本：山本むつみ 演出：陸田元一
プロデューサー：松尾雅隆
製作：NHK札幌放送局、NHK帯広放送局

【キャスト】

高良健吾……北村俊平(新人騎手)
寺脇康文……倉橋裕二(トップ騎手)
蓮佛美沙子…吉野早紀(新人広報)
杉本哲太……武井繁治(調教師)
柄本 佑……森山優斗(新人騎手)
赤木春恵……穂積トヨ(馬主)
ほか

【あらすじ】

ばんえい競馬の落ちこぼれ新人騎手・北村俊平。デビューから2カ月半を過ぎても勝利数はわずか1勝。ばん馬が競走馬になるための「能力検査」でも騎乗したトヨノコトブキを合格させることができず、馬主の怒りを買う。自信を失いかけた俊平だが、トップジョッキー倉橋の叱咤や、就職につまずきながらもばんえい競馬で懸命に頑張ろうとする広報担当の新人・早紀に勇気づけられ、逃げずに騎手として生きていくと心に決め、二度目の試験でトヨノコトブキを合格に導く。しかし倉橋が重い病を隠していることを知った俊平は、ある決意を固める。そして新馬の頂点を決める「イレネー記念」で、俊平は倉橋に運命を賭けた勝負を挑む…。

たすことができました。

寺脇康文さんが騎乗したのは、出演後、ばんえい競馬史上最高齢勝利記録を塗り替えることになるコトブキライアン。寺脇さんが初めてそりに乗る際に、金山明彦調教師がたまたま連れてきたのがこの馬で、寺脇さんご指名で出演する運びとなったそうです。高良さん、寺脇さんともに、撮影の合間も馬に声をかけてコミュニケーションを図り、本番ではプロ騎手顔負けの騎乗を熱演しています。

本ドラマのスチール写真を撮影したのは、長年ばんえいを撮影し続けている写真家・山岸伸さん。ドラマ放映に先立ち、道内各NHK放送局内で「大地のファンファーレ」ロケ写真展が開催され、撮影現場の緊張感を伝える数々の写真が公開されました。放送終了後は、帯広競馬場スタンド内でも写真パネル展が開かれ、現在もその一部が帯広競馬場に展示されています。

十勝・帯広を舞台モデルにした 大ベストセラーコミック

十勝管内出身の漫画家・荒川弘さんが実体験や取材に基づいて描いた「酪農青春グラフィティ」。平成二十三年に小学館「週刊少年サンデー」誌上で連載を開始され、単行本累計千五百万部を超える大ベストセラー作品となりました。



2014年にとかちむら内に設置された「銀の匙」ショップ

り込まれた『銀の匙』は、若い世代を中心に、多くの読者に「ばんえい」の名を広めました。

アニメと実写映画のヒットで 帯広競馬場が「聖地」に

『銀の匙』は平成二十五年にテレビアニメ化され、アニメファンからも熱烈的な支持を集めました。放映にあたって帯広競馬場や東京大井競馬場とのコラボイベントも開催され、十勝の情報が全国に発信されました。

平成二十六年には実写映画版が全国公開されて大ヒット。「聖地巡礼」として帯広競馬場を訪れる「銀匙ファン」が増え、ばんえいの認知度も一気に高まりました。実写映画が撮影されたのは平成二十五年。帯広競馬場をはじめ、帯広畜産大学、音更町、鹿追町、清水町など管内各所でロケが行われました。原作にはないエピソードも盛り込まれ、ばんえいレースが物語の重要なファクターとして描かれます。

映画のハイライトとなるのは、学園祭の草ばん馬シーン。ヒロイン・アキ役の広瀬アリスさんとライバル役の黒木華さんが、原作

同様手作りのコースでレースに挑みます。この時、広瀬さんが騎乗した馬はカッラアスリート。現在は映画の役名と同じキングの名でPRばん馬を務めています。当時はまだ現役競走馬として活躍していました。

作中、キングの手綱をひいて広瀬さんが農道を歩くシーンがありますが、何気ないシーンですが、ばん馬の手綱を女優さん一人に託して大丈夫だろうかと周囲はハラハラ。ところがキングは信じられないほど大人しくひかれ、キングを管理する服部義幸調教師を驚かせたそうです。服部調教師も、キングが売られていく場面で特別出演。別の場面では、ふれあい動物園のアパルーサ種の馬たちも登場しています。

映画のラストシーンは、原作にはない帯広競馬場での学生対抗模擬レース。この時アキが騎乗する白馬「シルバースプーン」を演じたのは、当時現役馬だったプロンガー。このレースの撮影で使われたゼッケンは、その他の美術小道具とともに帯広競馬場スタンド内に展示されています。



単行本「銀の匙 Silver Spoon」(小学館) 全13巻©荒川弘/小学館



©荒川弘/小学館



©荒川弘/小学館

主人公の目を通して、ばん馬の迫力やばんえい競馬の面白さが時にリアルに、時にコミカルに描かれる。



『銀の匙 Silver Spoon秋の巻Special BOX』
発売元：アニプレックス
価格：Blu-ray Box：¥34,500+税、
DVD Box：¥28,500+税
©荒川弘・小学館/エゾノー祭実行委員会



©荒川弘・小学館/エゾノー祭実行委員会
学園祭で草ばん馬レースに挑むアキとライバルの南九条あやめ。



©荒川弘・小学館/エゾノー祭実行委員会
同級生が塗り直してくれたそりには、萌え系のイラストが。名づけて「痛そり」。



『銀の匙 Silver Spoon』
発売元：TBS/小学館
販売元：ポニーキャニオン
価格：DVD ¥3,800 (本体) +税、
Blu-ray ¥4,800 (本体) +税 他
©2014映画「銀の匙 Silver Spoon」
製作委員会 ©荒川弘/小学館



撮影で使われたゼッケンやそり、御影きゅう舎の看板などの美術小道具。



©2014映画「銀の匙 Silver Spoon」
製作委員会 ©荒川弘/小学館
作中で重要な役を担ったキング。八軒役の中島健人さん、アキ役の広瀬アリスさんと。

コミック

作者：荒川弘
発行：小学館（「週刊少年サンデー」連載）

【あらすじ】

父親からエリートへの道を期待されていた八軒勇吾は、札幌の名門進学校受験に失敗。逃げるようにして帯広の「エゾノー」こと大蝦夷農業高校に入学し、寮生活を始める。そこで待ち受けていたのは、農家育ちの個性豊かな同級生やユニークな教師たち。目標もなく農高にやってきた都会育ちの八軒は、食糧生産現場や酪農経営の厳しさを知り、仲間たちにもまれ、次第に自分の進むべき道に目覚めていく。

アニメ

【スタッフ】

原作：荒川弘
監督：伊藤智彦（1期）、出合小都美（2期）
脚本：岸本卓
キャラクターデザイン・総作画監督：中井準
アニメーション制作：A-1 Pictures

【キャスト】

木村良平……八軒勇吾
三宅麻理恵……御影アキ
櫻井トオル……駒場一郎
矢作紗友里……南九条あやめ
ほか

映画

【スタッフ】

原作：荒川弘
監督：吉田恵輔
脚本：吉田恵輔、高田亮
企画・プロデュース：平野隆
製作：映画「銀の匙Silver Spoon」
製作委員会

【キャスト】

中島健人……八軒勇吾
広瀬アリス……御影アキ
市川知宏……駒場一郎
黒木華……南九条あやめ
ほか

ばんえい競馬を扱った主なテレビ番組

放映年・番組名・放送局名

平成19年	「土曜スペシャル」	テレビ東京
	「未来予測つながるテレビ@ヒューマン」	NHK
	「朝だ！生です旅サラダ」	朝日放送
	「遠くへ行きたい」	日本テレビ
平成20年	「タカアンドトシのどおーだ！」	UHB
	「いきなり！黄金伝説」	テレビ朝日
	「旅コミ北海道」	テレビ北海道
	「ぼっかや診療所事件カルテ」	朝日放送
平成21年	「タカトシ牧場」	UHB
	「スーパー Jチャンネル」	テレビ朝日
	「出没！アド街ック天国」	テレビ東京
	「プライムH 北海道ひと物語」	NHK
平成22年	「カラフル！」	NHK教育
	「にじいろジーン」	関西テレビ
	「ズームイン!! SUPER」	日本テレビ
	「笑っていいとも！」	フジテレビ
平成23年	「キズナのチカラ」	BS日テレ
	「目撃！日本列島」	NHK
	「報道ステーション」	テレビ朝日
	「爆問パニックフェイス」	TBS
	「みのもんたの朝ズバッ！」	TBS
	「十勝を食べつくせ！～原千晶グルメドライブ～」	HTB
	「知っとこ！」	毎日放送
	「北スペシャル 人と馬世紀を超えて～十勝・最古の草ばん馬」	NHK
平成24年	「とかしスペシャル」	NHK
	「大地のファンファーレ」	NHK
	「遠くへ行きたい」	日本テレビ
	「川越シェフの仰天レストラン！」	STV

平成24年	「ZIP！」	日本テレビ
	「A-studio」	TBS
	「スーパー Jチャンネル」	テレビ朝日
平成25年	「幸せを創る手の物語」	テレビ東京
	「負けてたまるか！」	TBS
	「野々村真&アッキーナが行く！絶景・グルメまるごと冬の北海道」	テレビ東京
	「ほこメたて」スペシャル	フジテレビ
	「撮り旅」	BS-TBS
平成26年	「キズナのチカラ」	BS日テレ
	「ペット大集合！」	テレビ東京
	「人馬一体 ばん馬とともに生きる」	NHK
	「タカトシ牧場」	UHB
平成27年	「ハナタレナックス」	HTB
	「にっぽんカメラアイ 帯広 春に生きる『ばん馬』」	NHK BSプレミアム
	「イチオシ！2泊3日の旅～夏の北海道 広大な大地の恵みを感じる旅」	BS日テレ
	「AKB観光大使」	フジテレビ
	「あさイチ」	NHK
平成28年	「日本の旬を行く！路線バスの旅」	BS-TBS
	「おにぎりあたためますか」	HTB
	「GO！GO！WEST！冒険したってええじゃないか！」	関西テレビ
	「みんなのふるさと」	フジテレビ
	「ハナタレナックス」	HTB
平成29年	「ウイニング競馬」	テレビ東京
	「ちちんぷいぷい」	毎日放送
	「STVどさんこワイド!! 朝！」	STV
	「今日ドキッ！」	HBC
	「朝だ！生です旅サラダ」	朝日放送

(注：平成29年3月27日時点)



登録抹消から奇跡の復活を遂げ、マスコミを賑わせたゴールデンバジー。

各種メディアに登場し 全国区に

ばんえい競馬は世界唯一の競技として、また北海道ならではの馬文化を伝える場として、国内外のメディアから注目を集めています。

帯広の新名所として マスコミも注目

帯広市単独開催となって以来、ばんえい競馬は「帯広でしか見られない世界唯一の競馬」として、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌など各種メディアに度々取り上げられるようになりました。ガイドブックや旅行雑誌での十勝帯広の紹介ページでは必ずと言っていいほど掲載され、観光名所としての認知度が高まっています。こ

うしたメディアでの露出によって、これまで競馬に縁のなかった人にも「ばんえい」が広く浸透していきましました。

全国ネットの人気番組やドキュメンタリーに登場

テレビ放送だけを見ても、地元局の番組はもとより全国ネットの人気番組やドキュメンタリー番組などで、ばんえい競馬が紹介される機会が年々増えています。内容は、騎手や調教師の密着取材、インタビュー、装蹄師や獣医師の仕事紹介、ばんえい競馬の楽しみ方、ばん馬との触れ合いや力比べ、「中高年の星」として話題になったゴールデンバジーのニュース、北海道の馬文化の紹介など、多岐にわたっています。レースだけではなく、さまざまな側面にスポットが当てられ、幅広い層の視聴者の



ドキュメンタリー番組制作のため、きゅう舎を取材するドイツ国営放送のクルー。

目に留まることになりました。

また、ドーダッシュの名付け親でもあるタカアンドトシさんをはじめ、大泉洋さんや戸次重幸さん、押切もえさん、福士蒼汰さん、野々村真さん、南明奈さん、杉村大蔵さんなどがレース観戦や模擬レースを体験。多くの著名人がばんえい競馬を楽しむ様子が放映されたことも、視聴者の関心を高めました。

旅番組の人気を背景に、ばんえい競馬と併せて、とちやむらや周辺の観光スポット、十勝のグルメなどが紹介されることも増えています。ばんえい競馬は帯広・十勝を代表する観光資源としても全国に発信されています。

「世界にひとつだけの競馬」に海外メディアも注目

世界でも類を見ないばんえい競馬は、海外からも熱い眼差しを注がれています。これまでに台湾テレビ、中国のカメラ専門雑誌社、韓国MBC放送局、タイTV、アメリカの雑誌「The Draft Horse Journal」（ザ・ドラフトホースジャーナル）、ドイツテレビ協会ZDFなど各国メディアが取材に訪れ、レースの楽しみ方やばん馬の歴史などを、それぞれの視点でレポートしています。

また平成28年2月には、フィリピン映画界の鬼オプリランテ・メンドーサ監督が、帯広とマニラを舞台にした短編映画のため、レースシーンなどを撮影。この作品は同年10月の東京国際映画祭にてアジア・オムニバス映画製作シリーズ「アジア三面鏡」の一作として上映後、世界各国で公開される予定です。



アメリカの雑誌「ザ・ドラフトホースジャーナル」に紹介されたばんえい競馬。フランス人ジャーナリスト・Virginia Kouyoumdjian（ヴァージニアクユミジャン）さんによる克明なレポートはウェブ版にも掲載されている。



矢野 吉彦さん
(スポーツアナウンサー)
「ウイニング競馬」(テレビ東京)、「プロ野球・社会人野球中継」(各局)、「パドミントン中継」(J-SPORTS) など数々のスポーツ番組の実況を担当。平成 18～19 年「BANBA 王」(GYAO インターネットテレビ) 出演。

ばんえい競馬が廃止寸前の崖っぷちに追い込まれた 1 日を、北見競馬場からインターネットTVで生中継したのはちょうど 10 年前のこと。花も葉っぱもむしり取られてしまったと思ったら、小さな芽は残っていました。いつ踏み潰されてもおかしくなかったその芽を、さまざま人の手で守り育ててきたおかげで、毎年少しずつ、咲く花の数は増えつつあります。もうこれを枯らすわけにはいきません。なにしろそれは、「世界でたったひとつだけの花」なのですから。



須田 鷹雄さん (競馬評論家)
中学生時代に競馬に興味を持ち、平成 2 年、大学在学中に『競馬ダントツ読本』(宝島社) でライターとしてデビュー。以来、競馬やギャンブルに関する著述を各種媒体で行うほか、テレビ・ラジオ・イベントの構成・出演も手掛ける。

北見競馬場最後の開催を、たまに思い出すことがある。北見だけでなく、ばんえい自体が無くなるかもしれないという切迫した気持ち。テレビクルーにインタビューされ、ラジオ NIKKEI 渡辺アナが号泣しながらばん馬たちの将来を心配していたのがあつたときだ。それを思うと、帯広競馬場だけになったとはいえ、いまも競馬の続いていることがなんと幸せか。しかも最近は注目度も高まり、売り上げも増えている。いまをありがたく思うし、関係者の方々には、支えてくれたすべての人々に対し、恥じるところのない競馬を続けていってほしい。



野村 文吾さん
(十勝バス株式会社 代表取締役社長)
帯広市出身。平成 15 年より現職。「シーニックパイウェイ北海道 十勝シーニックパイウェイ トカプチ雄大空間」代表、道東道とかち連携協議会会長、帯広商工会議所副会頭など公務多数。

平成 23 年に道東道が十勝まで全通するにあたり、道東道とかち連携協議会の取組みとして、十勝のプロモーションを 3 年計画で進めて参りました。その中でばんえい競馬をメインコンテンツのひとつとし、関係者の皆さまと連携して強く PR した結果、観光入込客数の増大という成果を共有でき、当社の「ばんえいプラン」は日帰り路線バスパックの主力商品に成長しました。こうした関わりをもつばんえい十勝が 10 周年を迎えられることに、心からのお祝いと感謝の言葉を申し上げます。また今後益々発展し、十勝の素晴らしいコンテンツとして世界にその名を轟かせることを願ってやみません。



荒川 弘さん (漫画家)
代表作『鋼の錬金術師』(スクウェア・エニックス)、『百姓貴族』(新書館)、『アルスラーン戦記』(講談社) など。『銀の匙 Silver Spoon』(小学館) で平成 25 年第 58 回小学館漫画賞少年向け部門、第 5 回マンガ大賞などを受賞。



栗谷 昌宏さん
(FM-JAGA DJ)
芽室町出身。FM-JAGA (エフエムおびひろ) の帯番組「十勝魂 778 x au」をはじめ、勝毎花火大会、エスポラダ北海道ホームゲーム、コンサドーレ札幌などの MC を担当。

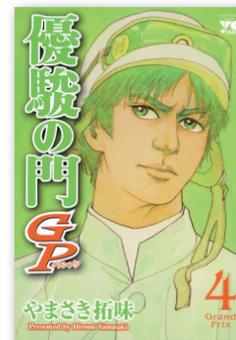
僕は勝負事が大好きです！ばんえい競馬の魅力は、勝負にかける魂が人馬一体となって伝わってくるところにあります。まさに十勝魂！筋肉隆々の大きな馬が歯を食いしばり、一歩ずつゴールを目指して進んでいく、その様を間近に見ながら、投票券を握り締めて応援する。勝負の楽しさはここにあるんです。しかも帯広競馬場には「元祖カレーラーメン」や「田中屋」さんの絶妙な塩加減の焼き鳥などの美味しいグルメもありますし、ばん馬に直接ニンジンをおげられるふれあい動物園もあります。スタンドの上段から見る帯広の町並みや夕焼けもとてもきれいです。こんな十勝の宝物をもっと多くの人知ってほしい。これからもばんえい競馬を応援したいと思います！

ばんえい応援メッセージ

ばんえい十勝10周年、ばんえい競馬70周年に寄せて、ばんえい十勝とご縁のある各界の方々から、お祝いや励ましのお言葉をいただきました。メッセージをお寄せくださった皆さまに、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



ばんえい競馬
70周年
ばんえい十勝
10周年
おめでとう
ばんえい競馬
応援団
2016.9



やまさき 拓味さん (漫画家)

昭和 47 年、『鬼輪番』(原作：小池一夫) でデビュー。競馬漫画の第一人者として知られ、代表作に『優駿たちの蹄跡』(集英社・ビジネスジャンプ)、『優駿の門』シリーズ (秋田書店・週刊少年チャンピオン) など多数。



根岸 吉太郎さん (映画監督)
代表作『遠雷』『探偵物語』『ヴィヨンの妻〜桜桃とタンポポ〜』など。平成 17 年『雪に願うこと』で東京国際映画祭のグランプリ、監督賞をはじめ 4 冠を獲得。平成 22 年、紫綬褒章受章。現在、東北芸術工科大学学長。

ばんえい競馬場の皆さん、またばんえいを支えてくださっている皆さん、70 周年、また帯広単独開催 10 周年おめでとうございます。私たちが『雪に願うこと』を撮り終えた頃、ばんえいが置かれた厳しい状況を振り返ると、現在のように力強く存続していることが信じられません。これはひとえに関係者の皆さんの並々ならぬ努力のたまものです。この間に、映画出演馬である「マルニシウカン」の仔が勝利したことも、私の大きな喜びでした。次なる喜びを見つけに帯広の鞍馬に会いに行きたいと思えます。ばんえい、バンザイ！



松岡 正海さん (JRA 騎手)

平成 15 年 3 月 1 日、中山 12R プラチナウィングで初騎乗。同年 3 月 23 日、中山 12R デュエットシチーで初勝利。平成 21 年、天皇賞 (春) マイネルキッツで優勝。ばんえい十勝「JRA ジョッキー DAY」に 8 回出場。

年に一度の「JRA ジョッキー DAY」も今年で 10 回目。種目が違っても、同じ競馬に携わる者同士、一緒にばんえいを盛り上げていこうという気持ちで協賛させてもらっています。ばんえいに関わる人々の優しさ、親しみやすい競馬場の雰囲気。そんなばんえい特有の環境が好きです。ばんえい競馬は奥が深く、初心者には魅力が伝わりにくい一面がありますが、僕らが参加することでその魅力が伝わり、少しでもファンの裾野が広がってくれたら嬉しいです。ばんえい騎手の皆さん、怪我のないよう、これからも頑張ってください！



山岸 伸さん (写真家)

(社) 日本写真家協会会員、とかち観光大使。広告・グラビア・写真集・雑誌の表紙撮影など幅広く活躍。平成 28 年に写真集『北海道遺産 ばんえい競馬』(朝日新聞出版) 発表。同年「日本写真協会賞・作家賞」受賞。

ばんえい競馬を撮り続けて 10 年になります。撮りためた写真を見て改めて思ったのは、僕は決して馬を撮っているわけじゃないんだということです。帯広競馬場に行くたびに僕を感じる、馬、人、景色、あるいは空気まで含めた「いったいここは何だ？」というインパクト。あのインパクトを撮りたいんだと思います。僕にとって力を与える場所です。これからも撮り続けていきたいです。ばんえい十勝 10 周年、おめでとうございます。

全国への周知を広める PRばん馬の活動

帯広市民にはすっかりおなじみのPRばん馬たち。青毛のリッキー、芦毛のミルキー、鹿毛のキングの三頭が「帯広市特別嘱託職員」として広報活動に当たっています。

子どもたちとの触れ合いから 始まった、PRばん馬の活動

PRばん馬の活動は、四市開催時代にさかのぼります。始まりは、北海道ばんえい競馬調騎会の発案で、当時まだ四歳の現役競走馬だったリッキーを連れ、各市の保育園や小・中学校を訪ねたこと。「子どもたちにばん馬のことを知ってもらいたい」との思いからでした。

帯広でのリッキーの初仕事は、クリスマスへのサプライズ訪問。調騎会の面々がリッキーとともに帯広競馬場近くにあるずらん保育所を訪ねてプレゼントを配ったところ、大きなばん馬を目の当たりにした子どもたちは大喜び。こうした活動を地道に積み重ねていくうちに、リッキーは子どもたちの

人気者になりました。

帯広市単独開催が始まった平成十九年、リッキーは「帯広市特別嘱託職員」に任命され、競走馬を引退して本格的にPRばん馬デビュー。翌年にミルキーが加わり、白い馬体と愛さようのある性

格で、瞬く間に帯広のアイドルに。さらに平成二十七年には、実写映画『銀の匙Silver Spoon』に出演したキングがPRばん馬に就任し、ベテラン二頭とともに広告塔として活躍しています。

ばん馬の馬車運行が 子どもや観光客の人気に

PRばん馬の活動のひとつは、行楽シーズンやイベントに合わせて開催される馬車運行。帯広競馬場と街の中心部を行き来するばん馬の馬車は、順番待ちの行列ができるほど子どもたちや観光客の人気を集めるようになりました。帯

広畜産大学の学園祭や八千代牧場まつりなど市内各所のイベントでも大活躍しています。

馬車ひきは、ごく自然なように思えますが、実は、どの馬でもできることではありません。レースでそりをひくことには慣れていても、馬車をつないだだけで驚いて暴れる馬もいるそうです。車が行き交う街なかでも動じることなく馬車をひき、子どもたちに触れられてもおとなしくしていられるのは、穏やかで人懐こい性格だからこそ。PRばん馬たちは、選ばれし親善大使なのです。



リッキー

生年月日：平成10年2月9日
出生地：北海道足寄町
性別・毛色：セン・青毛
父：カゲイサム、母：平錦
現役名：リッキー
戦績：139戦6勝
真面目で我慢強く、競うことがちょっと苦手。4歳の頃から、レースの合間に保育園や小学校を訪ねる活動を担ってきたPRばん馬の大ベテラン。



ミルキー

生年月日：平成15年4月10日
出生地：北海道鶴居村
性別・毛色：セン・芦毛
父：ウィニング、母：共佳早
現役名：イッシンブレイブ
戦績：69戦8勝
ミルキーの名は一般公募で決定。性格はおとなしくて好奇心旺盛。子どもたちが大好き。食いしん坊で、おねだり上手。



キング

生年月日：平成22年3月13日
出生地：北海道根室市
性別・毛色：セン・鹿毛
父：エビスハウザン、母：和星
現役名：カツラアスリート
戦績：94戦16勝
おとなしい性格を買われて、実写映画『銀の匙Silver Spoon』に出演。このあと8勝の成績をあげた後、役名のキングに改名して3頭目のPRばん馬に。

全国各地に出張も

三頭の活動は帯広市内にとどまらず、馬運車に乗って、道内や全国各地のイベント会場に「出張」します。会場では子どもたちを背中に乗せたり、馬車をひいたり、時には特設コースで、レースのデモンストレーションを行うことも。東京・大井競馬場や川崎競馬場で開催されるばんえいPRイベントでは、子どもたちと綱引き対決を行い、力強さをアピールしています。

また、国の無形民俗文化財であ

る岩手県の「チャグチャグ馬コ」にも例年参加。平成二十七年には六回目の参加を果たし、ミルキーを管理する鈴木邦哉調教師に、谷藤裕明盛岡市長より感謝状が贈呈されました。

こうした活動は、「ばん馬」と「ばんえい競馬」を全国に周知させることに大きく貢献しています。普段は帯広競馬場に併設されている「ふれあい動物園」の馬房で暮らしている三頭ですが、ここで国内外から訪れるお客様と触れ合うことも大事な広報活動の一環です。



「大きくてかわいい」と子どもたちに愛されて10年。リッキーは帯広の人気者。



普段はふれあい動物園で暮らすPRばん馬たち。ニンジンをおねだりする仕草や時々見せる「変顔」で来場者を和ませる。



大井競馬場（東京シティ競馬）でミルキーと触れ合う子どもたち。



川崎競馬場のばんえいイベントで力強く馬車をひくミルキー。

着ぐるみリッキーも全国へ



実写映画『銀の匙Silver Spoon』にも出演した現在の着ぐるみリッキー。

ばんえい十勝のマスコットキャラクター「着ぐるみリッキー」は、子どもたちや観光客に人気のご当地ゆるキャラ。普段は帯広競馬場でお客様を迎えています。全国各地のイベントにも参加し、ばんえい競馬をPRしています。ちなみに現在の着ぐるみリッキーは3代目にあたり、平成20年に先代からパトタッチしました。



着ぐるみリッキーは4市開催時代の平成10年に誕生。写真はばんえい十勝発足時に活躍した2代目。

